

日 時：平成 29 年 1 月 26 日（木）18 時 30 分 ～20 時 00 分

場 所：三町会農業研修センター

対象地区：三町会

参加人数：20 名

■意見交換

内 容
<p>○宝くじのコミュニティ助成について (市民からの要望、質問)</p> <p>昨年、市役所の協力もいただいて、自治総合センターの事業である宝くじのコミュニティ助成に当選した。集会所のストーブやカラーの複写機、テントなどの購入に充てることでできて本当に助かっている。町会の財産として大切にしていきたい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・宝くじのコミュニティ助成は一年に 1 町会くらいしか県から割り当てられない。2～3 町会充てることができればいろいろと出来るかと思われるが。おそらく今回当たったのであれば 20～30 年は当たらないかもしれない。</li></ul>
<p>○川合の橋の建て替えについて (市民からの要望、質問)</p> <p>四ッ屋から弘前市に向かう川合の橋の建て替えについて、県道だと思うので弘前市と協力して県に強力に要望してもらえないかと考えている。老朽化が激しく、すれ違いも危険だと思う。また、大雨などでの決壊も心配である。通勤などの利用も多いので、強力的な要望をお願いしたい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・川合の橋に関しては、だいぶ前から町会からの要望をいただいている。以前現場を確認して、県に要望は出している。市から県に要望を出している案件というのは、市内で 22 カ所ある。県に順番をつけてもらいながら取り組むことになるが、なかなかこの橋に関しては、補修、拡幅などをすると、相当の経費がかかってくるので、簡単にはいかないのではないかと考えている。</li><li>・国の方でも、橋の長寿命化を進めており、平川市としても、320 前後ある橋の点検などをして、長持ちさせるよう取り組みを進めている。</li><li>・川合の橋の場合は弘前市とまたがっており、県道でもあるので市単独の考えではなかなか進められないというもある。</li><li>・橋の架け替えまたは拡幅の要望をしているなかで、県からは川合地区の道路拡幅も合わせた整備ということであれば、期間を要するが事業化することについては可能ではないかというお話をいただいている。ただし、川合の道路拡幅となると、住居の移転や、地</li></ul>

元の協力が必要なこともあり進んでいない状況である。

- ・ 県としては川合の橋について長寿命化の補修をするような形で取り組んでいるところであり、補修することによってあと 30 年ほど長寿命化が見込まれることとなる。いくらかでも橋の幅員が広がるような形での補修ができないかと要望しており、橋の地覆や欄干の補修をする際に車道を広げていただくような形で進められないか、県と話を詰めている状況にある。そのため、現時点での架け替えというのは厳しいのではないかと考えている。
- ・ 延長も 280 メートルほどある。昨年架け替えた古懸の橋については約 52 メートルで 8 億の事業費がかかっている。川合の橋を架け替えるとなると莫大な事業費が発生し、事業化は厳しいところであるので、拡幅の方向での取り組みをご理解をお願いしたい。
- ・ 平賀西中から四ッ屋の入り口までの道路の拡幅については、現在県で進めている。建物がかかる所について 29 年度に県で用地取得の交渉に入るということである。一部 29 年度中に工事についても取り掛かる部分があるかと思うが、西中側から着手し、館田から四ッ屋の方にかけては後から取り掛かるものだと考えている。

#### ○ねぶたについて

(市民からの要望、質問)

冬のねぶたを平成 28 年は開催しなかったと思うが、今後は開催するのか。また、夏のねぶたについて、ものすごく経費が掛かっていて予算が足りない。いくらかでも市の方で助成等してもらえないものか。

(市の回答)

- ・ 冬のねぶたは、昨年度は市制施行 10 周年の記念事業として行った。その前の 5 年間は、東北新幹線の新青森開業を記念して開催した。12 月の第一土日でやっていたが、冬の開催ということもあり 5 年間で運行できたのは 6 日間であった。その前は、旧平賀町時代に西暦 2000 年を記念して 5 年間、大みそかに開催していた。
- ・ 今後開催するかについては、市民の皆さんの要望や、ねぶた団体の皆さんが運行してもいいという話になれば検討していきたいと思う。
- ・ 冬にねぶたを運行することについて様々な意見があるが、祭りを発信することに関しては、ほかのどこでもやっていない冬に開催することによっていろんなメディアでも取り上げてもらえるという利点がある。ただし、天候による影響が大きいのと、ねぶた団体にとっても寒い中運行するのは大変だということもあるので、様々な声を聞きながら検討していかなければならないかと思う。
- ・ 夏のねぶたについては近年評判がよく、大変喜ばしく、各ねぶた団体の努力の賜物だと思っている。弘前での事故以来、講習会を行うほか、昇降機に網を設置するなどの制約を設けているが、今後も夏の平川ねぶたをアピールしていきたいと思っている。
- ・ 駅からマルチ薬局のところまで電線地中化が完了した。さらに、バイパスまでの電線地中化についても国などへの要望の結果採択された。平成 29～32 年度の 4 年間で事業化

するという了解も国から得ている。それが完成すれば、世界一の扇ねふたも折ったり下げたりすることなく運行できて見栄えも違ってくるかと思う。

- ・昨年ねふたの PR のため、10 トントラックに詰め込んで運送できる高さ 5.4 メートルのねふたを作成した。北九州市や松山市でりんごの販売と合わせながら平川市の宣伝を行った。
- ・平川ねふたまつりの実行委員会事務局は商工会の中にある。市として奨励金や補助などがないかとのことだが、許可を得た各団体に制作と運行の助成として 1 団体あたり 10 万円を交付している。
- ・昨年は 35 団体の参加があったので、350 万円交付した。また、ねふたまつり実行委員会にも 350 万円補助金を出しており、市としてねふた関連に予算を割いていることもあり、現状として上乗せは難しいと考えている。ご理解をお願いしたい。

#### ○野外広場の確保について

(市民からの要望、質問)

町会内に、野外の広場を確保できないものかと思っている。災害時などの避難場所として野外が使えない。イベントなどもできず、室内でしか活動できない状況である。

(市の回答)

- ・敷地をどこに求めるのかということをもまず検討する必要がある。建物が経っていたところの跡地とかがあれば、市で購入して広場にするということも考えられる。また、この地域の皆さんが、どこにどのような土地を求めているのか、ただ広場をつくるとなってもそこがわからないと市としても進められないところがある。

(市民からの要望、質問)

この集会所のとなりの土地が、農地としてほとんど使われていないので、そういった土地を取得して、広場にするように進めてもらいたいと考えている。

(市の回答)

- ・その土地に関しては個人の土地だと思うので、取得に関して地元負担などの問題もでてくるかと思う。土地取得などが可能かどうか協議したいと思う。
- ・公園の規模や、トイレを設置したり東屋を設置したりだとか整備概要によっても金額が変わるかと思う。各町会の公園に関しては町会の指定管理という形になるので、町会で管理するという了承や土地所有者の了承があれば、どのくらいの規模を必要としているのかも合わせて、改めて市役所にご相談いただければそれに応じた検討が可能である。

#### ○農道の待避場所整備について

(市民からの要望、質問)

石畑から石郷へ向かう農道があるが、車同士がすれ違うのが大変である。すれ違うこと

ができる退避場所などを整備してもらえないか。

(市の回答)

- ・待避所をつくるとなると水田付近の用地を取得する必要があるので、取得の了承を得られるか等確認をしながら進めることになる。町会の要望をいただきながら検討していきたいと思う。現場の場所が大体わかっているので、確認してみて町会長に連絡する。

○農産物の販売所について

(市民からの要望、質問)

農産物版の100円ショップのような場所が出来ないかなと思っている。農作物を作っているが、本格的な農家ではないので、中途半端に作物が余る。処分しきれずに腐らせてしまうものも結構ある。農協や弘果への出荷もしてみたり、自宅前に販売スペースを作るなり直売所に持っていきなりさまざまな方法があるかと思うが、高い登録料がかかったり、場所がなかったり、作物が少なすぎたりいろんな理由から尻込みしている。そういった人は非常に多いのではないかと思っている。そこで、まちなかの空き店舗や閉鎖された事務所とか学校を利用した販売所などがあればどうかと考えている。

(市の回答)

- ・アグリアスなどは今出た意見と似たような形態かなとは思いますが、各町会でも屋根をかけた販売スペース等を設けていたりするのでそういった場所の利用も手だと思う。
- ・去年、市が主体となって食ラボの所でトラックマーケットを開催した。あそこにどんどん作物を持ってきてもらえれば、集まる人も多くなっていいのではないかと思う。昨年4回開催して、4回目は400人前後集まったということである。かならずしもトラックでなければいけないわけでもないので、そういったところを活用していただければいいのかなと思う。
- ・トラックマーケットについての参加料はいただいていない。個人で持ち込みはできるが、広報などで参加者の募集をしているので事前に農林課に申し込んでいただく形になる。

○四ッ屋地区整備について

(市民からの要望、質問)

四ッ屋町会を引き継いだとき荒れ放題だったが、ここ4年間でコミュニティ奨励金やマイロードマイタウン事務費、多面的機能支払交付金等を頂いて、集会所などの整備が進んでほぼ元通りになった。感謝申し上げたいと思う。

○ハグメグ支援員について

(市民からの要望、質問)

広報ひらかわの12月号を見たところ、死亡者が38人、結婚したのが4組、生まれた人が8人となっていた。だんだんと結婚する人が少なくなっている。先月役所の方からハグ

メグ支援員の募集が来ていたが、そのことについて町会の皆さんの前で説明・宣伝していただければと思う。

(市の回答)

- ・町会長がお話ししたとおり、人口の減少についてはみなさんご承知かと思う。合併当初36,000人くらいで推移していたのが、平成27年の国勢調査では32,100人前後という人口形態となった。市としても、地方創生という事業のなかで将来の人口ビジョンを出して、自然減と社会減をいかに緩やかにしてこの地域を保っていくかの計画を進めている。
- ・子育て支援なども大事だが、一緒になる人が多くないといけないということでどうするべきか案じているところである。電車で合コンや、カップリングパーティーを開催しているが、なかなかカップルの成立が少ない。今計画しているのが、弘前や黒石や大鰐など広域で一緒になって開催するようなカップリングパーティーをやってはどうかというのが一つの案である。
- ・もう一つが、町会長からも話があった「ハグメグ応援事業」を市で始めようとしている。それぞれの町会の中などで、カップルを結びつけるような人に支援員として登録していただいて、それぞれが持っている情報を集めながら結びつけを行っていきこうということで全町会にお願いをしている。仲を取り持つ仲人のような人を復活させて、くっつける役目を果たしていただければとの思いで事業を始めようとしているところである。佐賀県の武雄市の「お結び課」のように実績を上げている事業もあり、いろいろと検討し、今回は「ハグメグ応援事業」を進めることとなった。市内全域から情報を提供したり、仲を結びつけてくれる人を探して一組でも多くのカップルができるよう事業を進めたい。

(市民からの要望、質問)

弘前市や黒石市と合同でのカップリング企画は開催する方向なのか。

(市の回答)

- ・ほぼ決定的になっている。弘前市の出愛サポートセンターなどと連携し、平川市の商工会でもイルミネーションを活用したイベントもやったと聞いている。
- ・市内で開催したカップリングパーティーに顔を出したが、男性女性とも40名くらいずつ来ていたかと思う。何回か繰り返すことによって異性と話すこと自体に慣れていくかと思うので、今後も継続していくべきだと思っている。

○市外からの移住政策について

(市民からの要望、質問)

都会の人を呼ぶために、集会所などを利用して農家民泊などを展開してはどうか。農業に憧れがある人が多いと聞くので農作業を手伝ってもらったりして、人が来れば何かしらの出会いもあるのではないかと思う。集会所の空き日数が多いので、宿泊施設として使っ

て、農作業を手伝った家にご飯を食べに行ってもいいし、自炊してもいい。検討をお願いしたい。

(市の回答)

- ・市としては、県外からの移住促進のための事業を 29 年度から本格化する。東京にある青森県移住サポートセンターなども活用してもらいながら、県外からの移住者を募集したいと思っている。
- ・市のプロモーションビデオで、観光編、移住編、物産編と 3 つのビデオを作成している。移住編には、イラストレーターの方に出演いただいている。
- ・市内にある約 700 軒の空家のうち、利用可能な空家が 96 軒あるということである。その空家に住んでいただけるような手当をしていきたいと考えている。リフォームなどの助成も検討している。
- ・子育て世代への政策として 25～27 年度と住宅の補助をしたところ、それを活用して市外から転入してきた世帯が 25 件くらいあった。また、28 年度から子育て世代以外でも、地元の業者を利用して家を建てた場合に最高 100 万円まで助成するようにした結果、申し込みが 60 件ほどあって、うち 29 件が市外からの申し込みであった。
- ・市外からも県外からもどんどん平川市に人を呼び込んでいきたいと考えているし、移住の取組が軌道にのったら集会所の利用の仕組みなども考えたいと思う。宅地も増やせるようにして将来に向けての施策を進めていきたい。

○街灯について

(市民からの要望、質問)

川合の橋を渡って、四ッ屋のバス停の所まで街灯がない。カーブになっている所なので夜間とかは街灯がないと危険かと思う。設置をお願いしたい。

(市の回答)

- ・現場を見て、設置が可能かどうかを町会長へ回答する。

○未使用の古い木の電柱について

(市民からの要望、質問)

古い電柱について市の方で撤去してもらえないか。もともと街灯に使っていたようだが、今は新しい電柱が立っていて古い電柱が傾いているような状態である。

(市の回答)

- ・現場を確認してみて、市で立てたものなら市で撤去する。

○大坊小学校の今後のあり方について

(市民からの要望、質問)

大坊小学校はこれからどうなっていくのか知りたい。

(市の回答)

- ・大坊小学校は今の1年生が4人で、来年度の入学予定者が7人となっている。2年生と3年生、あるいは3年生と4年生のように隣り合った学年の児童数が合わせて16人以下になると複式学級の編成ということになるが、教育委員会としては、学校をどうしていきたいかという地域の方々の思いを一番に考えて、お話を伺いながら進めていきたい。
- ・広船小学校の統合の話が持ち上がったとき、PTAの方などと協議したが、スポーツなどをするにしても、大きいところに行っている人々と接したほうがいいのか、あくまでも大坊小学校単独で残すのか、地域の方の考え方を聞きながら検討することになる。子どもたちにとって一番いいような形をとっていきたい。